

からと まちづくりワークショップ

～地区の良いところと課題を共有しよう!～



12月7日(日)
下関市勤労福祉会館 4階ホール

ステップ2:

「からと」の現状や これまでの取り組みについて

上位計画(総合計画・都市マスタープラン・立地適正化計画)



地図出典: 下関市都市計画マスタープラン

ウォーターフロントとして、下関駅や国際フェリーターミナルから唐戸地区への水際線における回遊性の向上や、観光業や既存施設の利活用を通じて「みなとのにぎわいの創出」を目指している。

(第3次下関市総合計画(R7.3))



□ = 対象エリア

下関駅から唐戸は、都市の中心として、医療、福祉、商業施設といった生活に必要な都市機能を誘導・集約し、効率的に提供することを目指すエリアに位置付けられる。
(下関市立地適正化計画(R7.6))

- ・ 唐戸地区周辺は、快適で生活利便性が高い市街地を形成
- ・ ウォーターフロントは、歴史・文化・観光資源を活かした観光ゾーンを開発
- ・ にぎわい・回遊性のある都市空間を創出
(下関市都市計画マスタープラン(R4.3))

関連計画(下関海峡エリアビジョン)

あるかぽーと・唐戸エリアの将来イメージ(唐戸商店街)

市民

行政



イラスト/宮田浩徳

関連計画(あるかぽーと・唐戸エリアマスタープラン)

- 地区の主要な事業主体である(株)星野リゾートと連携し、「あるかぽーと・唐戸エリア」の活性化に取り組んでいる。
- 対象エリアには、関門観光の核となる唐戸ゲートウェイハーバーゾーンと、唐戸市場を中心とした水産・漁業レクリエーションゾーンが面している。

たてみち

- 海峡と街をつなぐ回遊動線として、商業エリアや寺社・史跡、モビリティステーションと海峡プロムナードを結び、視線の抜けや案内サインで街への誘導の強化を図る。

対象エリア

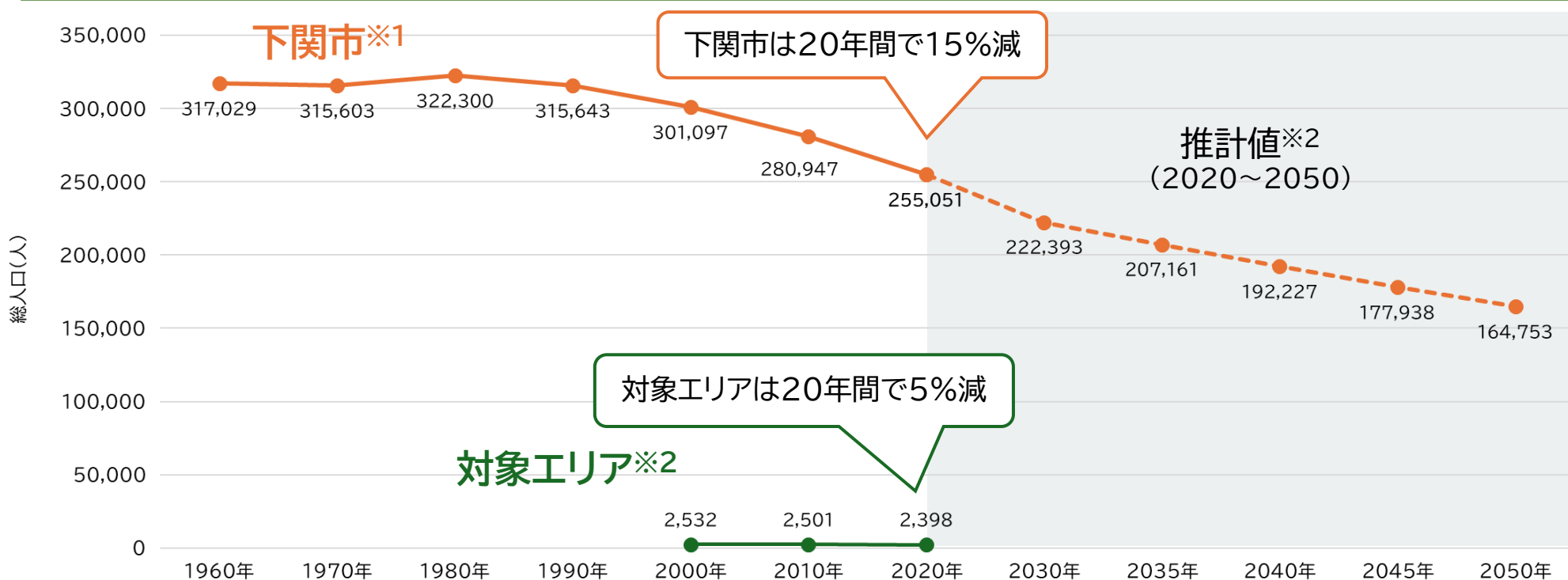
唐戸ゲートウェイハーバーゾーン

- 整備方針は「下関の海の玄関口として“ワクワク感”を演出するエリア」
- “お出迎え感”のある船だまり等の導入を検討

水産・漁業レクリエーションゾーン

- 整備方針は「食と水産業・漁業の楽しさを五感で味わえる食文化エリア」
- 唐戸市場エリアの活性化、市場の活気と港まちの風情を楽しむ食物販機能等の導入を検討

人口



- 下関市※1は、1970年(昭和45年)～1980年(昭和55年)に一時的な人口増加が見られたが 1980年以降は減少傾向が続いている。2000年(平成12年)～2020年(令和2年)の20年間で人口は約15%減少した。
- 今後、下関市全体の人口はさらに減少が見込まれており、2020年～2050年の30年間で約35%減少し、164,753人になると予測される。※2
- 対象エリア※3では、2000年以降、人口の緩やかな減少傾向が続いている。

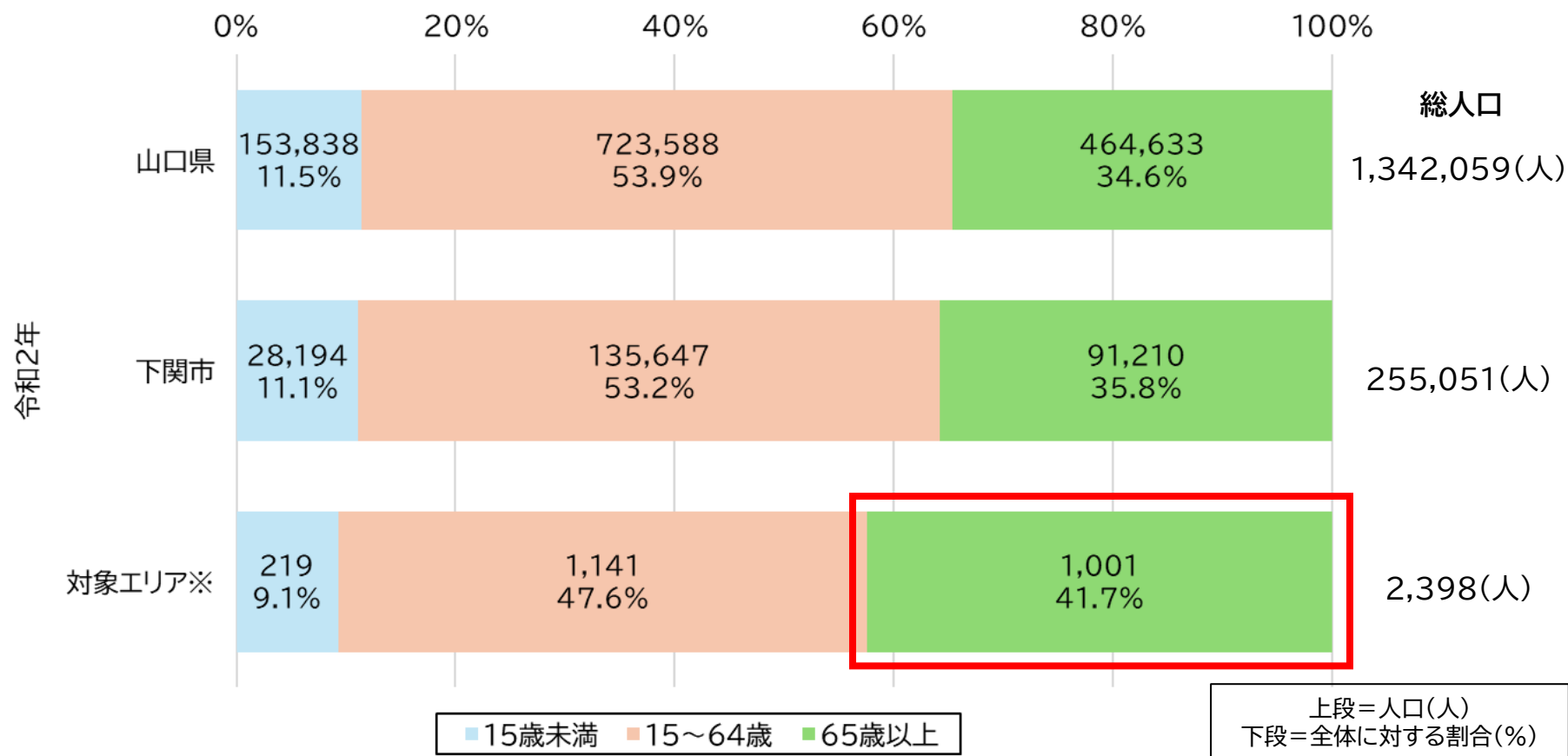
※1 平成17年以前は旧下関市、菊川町、豊田町、豊浦町、豊北町の合計

※2 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の推計値

※3 対象エリア=田中町、唐戸町、赤間町、中之町、南部町の合計

データ出典:国勢調査(1960年～2020年)、社人研推計人口(2020年基準推計値:2030年～2050年)

年齢割合(2020年(令和2年))



- 対象エリアの高齢化率は41.7%で、山口県全体(34.6%)や下関市全体(35.8%)と比べても高い数値となっている。
- 対象エリアの特徴として、15～64歳(生産年齢人口)と65歳以上(高齢者人口)の割合に大きな差がなく、人口構成が高齢者に偏っていることが挙げられる。

※対象エリア=田中町、唐戸町、赤間町、中之町、南部町の合計
 データ出典: 国勢調査

唐戸周辺の観光地



③下関南部町郵便局



④旧秋田商会ビル



⑤旧下関英国領事館



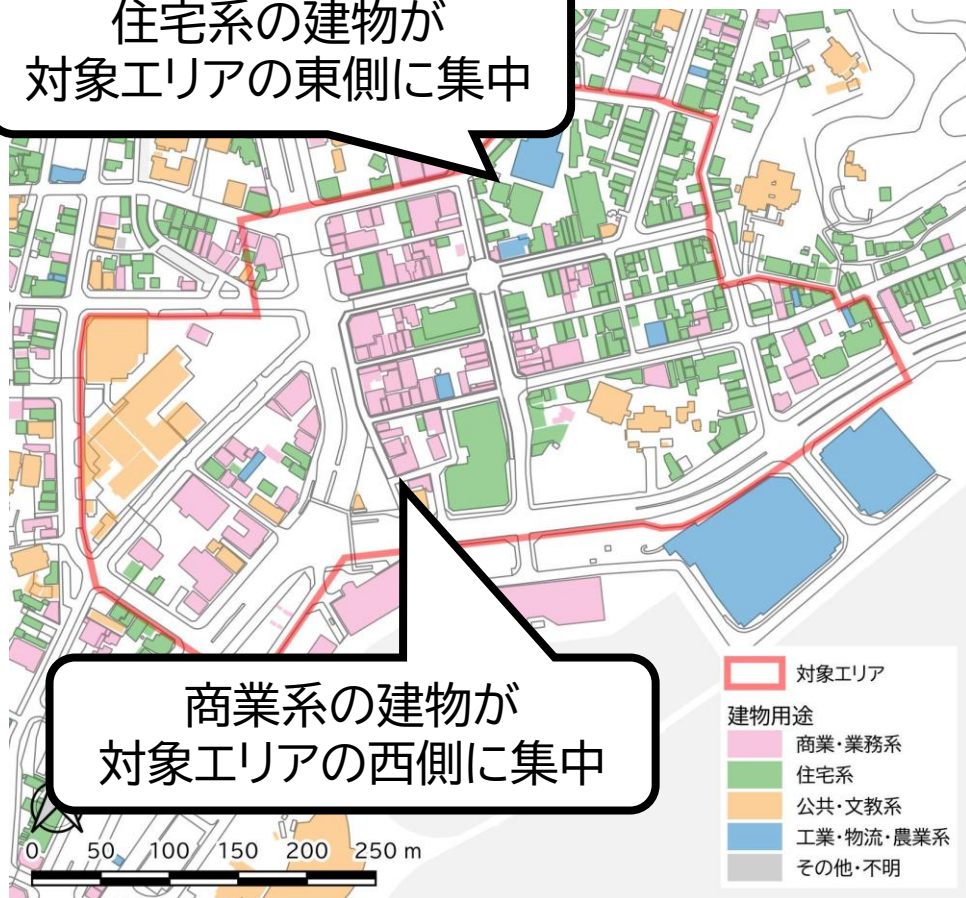
⑧ 龜山八幡宮

出典：関門海峡観光推進協議会(山口県・下関市・北九州市)
『関門海峡・浪漫マップ 下関・唐戸地区』に加筆

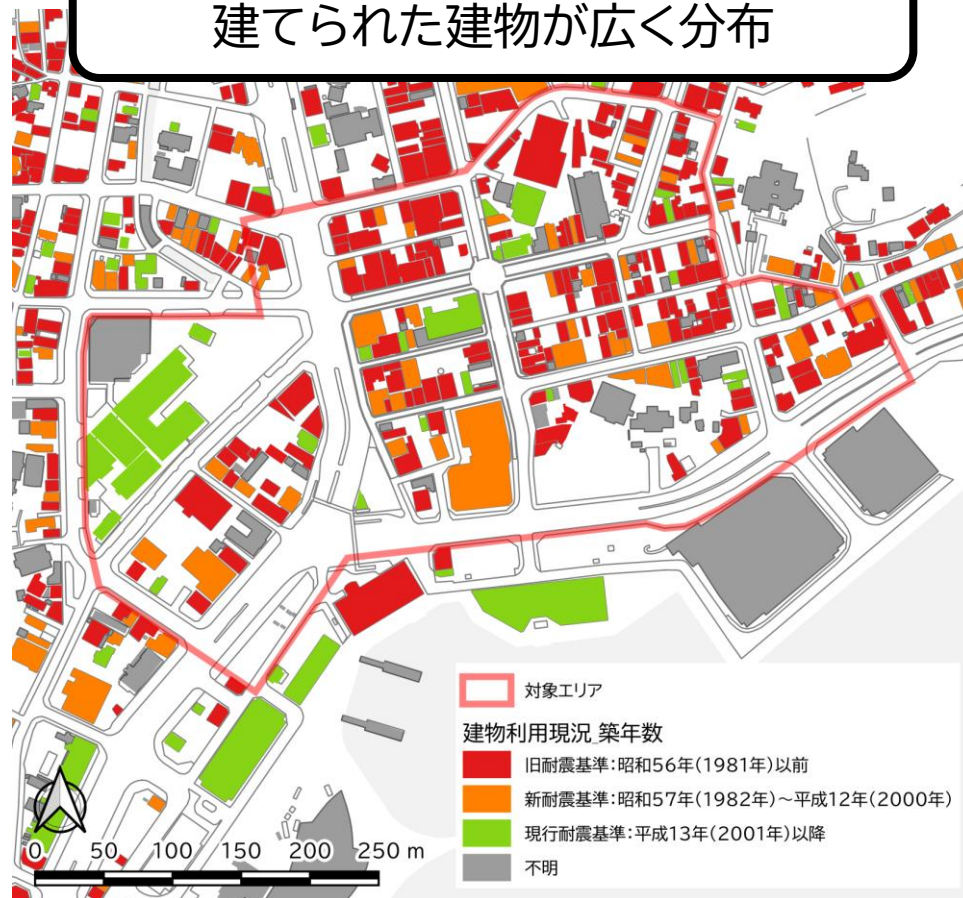
 =対象エリア

建物の現況(用途及び建築年)

住宅系の建物が
対象エリアの東側に集中



旧耐震基準(1981年以前の基準)で
建てられた建物が広く分布



資料:令和4年度都市計画基礎調査 建物利用現況から作成

- 商業系の建物が多い(地域の約50%)。次いで住宅系の建物が多い(約35%)。※
- 旧耐震基準(1981年以前の基準)で建てられた建物が多い(約49%)
(下関都市計画区域全体では約38%)。※

※延床面積より算出

歴史的背景

江戸時代

北前航路の寄港地として発展した

明治時代

【1896年(明治29年)】

江戸湾の埋め立てによってできた町を
「江戸町」として指定

【1901年(明治34年)】

英国領事館が開設
(現存建物の竣工は1906年(明治39年))

それ以降、他の7か国によって領事館が開設
や領事が駐在するとともに、外国商館や貿易
会社、金融機関が進出した。

大正時代

【1924年(大正13年)】

阿弥陀寺町にあった魚市場が現在の地に
移転し、「江戸魚市場」として発足

昭和時代(戦前・戦時中)

【1929年(昭和4年)】

路面電車が江戸～東下関駅間で開通

【1945年(昭和20年)】

下関空襲で多くの焼夷弾が投下される



下関南部町郵便局(明治33年竣工)
出典:日本郵政



英国領事館(明治39年竣工)
出典:下関市HP



江戸魚市場
出典:江戸市場HP

歴史的背景

昭和時代(戦後)

【1947年(昭和22年)
～1955年(昭和30年)】

「戦後復興」として土地区画整理事業を実施
※現在の区画割に

【1960年(昭和35年)頃】

唐戸地区の商店街が賑わう

【1986年(昭和61年)】

市街地再開発事業により「カラトピア」が竣工



カラトピア

出典:下関市HP

平成時代

【1992年(平成4年)】

市街地再開発事業により「カラトコア」が竣工

【2001年(平成13年)】

「海響館」「唐戸市場」がオープン

【2005年(平成17年)】

旧下関市と豊浦郡4町が合併、新「下関市」が誕生

【2013年(平成25年)】

「はい！からっと横丁」がオープン

【2019年(平成31年)】

あるかぽーと開発 優先交渉権者に星野リゾート選定



現在の唐戸商店街

出典:協同組合唐戸商店会HP

令和時代

【2025年(令和7年)8月】 「海響館」がリニューアルオープン

【2025年(令和7年)12月】 「リゾナーレ下関」がオープン



リゾナーレ下関

出典:星野リゾートHP

- 唐戸地区は、古くから海上交通と交易の要衝として栄え、近代以降は歴史的景観とウォーターフロントが共存するエリアとなる。

近年のまちづくりの動き

「一般社団法人からまち」

- からとエリアの各商店街の法人・通り会が一本化されたまちづくり組織
- 人流データを活かしたマーケティング、チャレンジショップやアプリ開発、マップ制作などを通じ、商店街の再生に取り組む
- 「ほこみち」を活用し、道路にベンチを設置するなど、空間づくりにも取り組んでいる
- 中小企業庁「地域にかがやくわがまち商店街表彰2024」を受賞



出典:下関市HP



- そのほか、今後も事業等の実施が予定されている。
- 市道唐戸町5号線の道路整備(たてみち)
 - 「唐戸市場」の大規模改修(2031年オープン予定)

「唐戸はれて横丁」

- 元衆議院議員の杉村太蔵氏が運営
- 出店主への金銭面の支援や、経営者間の技術情報交流を促し、まちの活性化を図る
- 2024年(令和6年)1月に19店舗によってグランドオープンした。



出典:Yahooニュース

「ほこみち」

- 国交省の「ほこみち」事業を導入し、歩行者中心の滞留可能な空間づくりを図る。
- 歩行空間を2.0m以上確保し、占用許可によって、団体がイベント開催や食事スペースとして活用できる。

本日使用した資料につきましては、ホームページで公開します。

※今後、ワークショップの状況や次回の予定なども随時更新していきます。

ホームページ URL

<https://www.city.shimonoseki.lg.jp/soshiki/75/140773.html>



ワークショップに関する問い合わせ

下関市 都市整備部 市街地開発課 再開発係

〒750-8521 下関市南部町1番1号 本庁舎東棟3階

TEL：083-224-2025 FAX：083-224-2032

E-mail：tsshigai@city.shimonoseki.yamaguchi.jp